

あの歌、あのフレーズが 心に刺さって



各界の著名人たちの思い出がつまつた「あの曲、あのフレーズ」①

曲名／歌手名	発表年	名フレーズ	解説	選者
『野球小僧』 灰田勝彦	'51年	朗らかな 朗らかな	日本が主権を回復する前年、野球ブームに乗って明るい歌詞でヒット	岡田彰布
『古城』 三橋美智也	'59年	ああ仰げば佗し 天守閣	300万枚の売り上げた三橋の代表曲。栄枯盛衰と人の世の夢を歌う	佐藤蛾次郎
『アカシアの雨がやむとき』 西田佐知子	'60年	このまま 死んでしまいたい	雨のようにアカシアの花が散る。悲恋の詞を物憂げな声で歌いあげる	山本晋也
『さすらい』 小林旭	'60年	今日も 今日も旅ゆく	原曲は南方の兵隊愛唱歌と言われる。映画『南海の狼火』の主題歌	富士眞奈美
『上を向いて歩こう』 坂本九	'61年	一人ぼっちの夜	永六輔氏は安保闘争の敗北に影響を受けた歌詞だと明かしている	山田たかお
『江梨子』 橋幸夫	'62年	江梨子は死んでしまった	橋が主演する同名映画の主題歌。悲劇的な恋愛がテーマの青春歌謡	石倉三郎
『修学旅行』 舟木一夫	'63年	若いぼくらの 修学旅行	当時の中高生は自分たちの修学旅行のバスのなかでこの歌を熱唱	立川談之助
『男の誓い』 高倉健	'65年	男の誓いは 鉄よりかたい	健さんの8枚目シングル。作詞は矢野亮。任侠道の男気が響く	鹿島茂
『新聞少年』 山田太郎	'65年	朝刊太郎と 云うんだぜ	早朝に新聞配達をし、昼間は学校に通う少年たち。団塊世代の応援歌	岡田彰布
『いっぽんどこの唄』 水前寺清子	'66年	ぼろは着てても こころの錦	星野哲郎作詞のミリオンセラー。高度成長期の日本人を元気づけた	岡田彰布
『君こそわが命』 水原弘	'67年	君こそ命 わが命	『黒い花びら』のヒットの後、落ち目になった水原はこの曲で復活する	鹿島茂
『恋の季節』 ピンキーとキラーズ	'68年	夜明けのコーヒー	ピッキーこと今陽子は当時16歳。黒いパンタロンスツも印象的	今野敏
『ブルー・ライト・ヨコハマ』 いしだあゆみ	'68年	ゆれて あなたの腕の中	青いガス灯と港の見える丘公園から見える夜景を幻想的に表現した	石倉三郎
『雲にのりたい』 黛ジュン	'69年	雲にのりたい やわらかな雲に	黛は『天使の誘惑』に続く、この曲で男性を虜に。作詞は大石良蔵	鹿島茂
『くそくらえ節』 岡林信康	'68年	くそくらえったら 死んじまえ	岡林のデビュー曲のはずが、体制を笑いとばす過激な歌詞で発売禁止	立川談之助

10代の頃にいだいた、歌手への恋心は何十年経つても色あせない。元レコード会社勤務で数々のベストセラーを生み出してきた、作家・今野敏氏（63歳）は、ピンキーとキラーズの『恋の季節』への想いをこう語る。「私が中学1年生のとき、『私が中学1年生のとき』の大流行した曲です。深夜ラジオで聞いたのが最初でした。朝5時までラジオを聞いて、学校に行つていきましたね。この曲を聞くと、そのころの記憶がよみがえります。ピンキーこと今陽子さんに私は憧れています。生まれてはじめて歌手のことをとてもなく好きになつたんです。歌番組で見たピンキーは、ショートカットの大人びた雰囲気も素晴らしい笑顔。楽曲も素晴らしかった。歌を好きになることに理由はいりません。人との出会いと一緒に笑顔です」10代だった今野氏が憧れた女性歌手がもう一人いる。南沙織だ。彼女の

デビュー曲である『17才』も思い出深い曲だという。「高校1年生のときに寮に入つたんです。そこで夜ラジオで聞いたのが最初でした。朝5時までラジオを聞いて、学校に行つたのが『17才』。ボスターが1枚、おまけに付いてきて、その争奪戦で百円ずつ出し合つて、買ひやんけん大会をやつたのを今もよく覚えていました。私にとって、南沙織さんは沖縄を好きになるきっかけでもあります。北海道民の私にとって、南沙織の私にとっては、仲良くなつた連中と一緒にレコードショップで数々で、南沙織さんが好きでした。当時は、寮生活への不安と四六時中、同級生が周りにいるワクワク感があつた。いまでも『17才』を聴くと、そういう感情がないまぜになつき家族を思い出す歌について語つた。

『三橋美智也さんの『古城』は、親父との思い出の歌です。中学3年生の頃、親父がこの曲のLPを買ってきて、毎日のようになります。当時の私はメロディが響いた。そして歌詞の良さが分かるようになって、また心を打たれた。哀愁が漂つていて堪らない。親父は歯医者で、地元の患者さんに優しかつた。たとえおカネがなくとも『歯がなかつたら生活ができない』と言つて、二束三文で治療をしたりしていました。そのため、親父の世話になつた農家や漁師がしょっちゅう野菜や魚を持ってきてくれて、南沙織は『黒い花びら』のヒットの後、落ち目になった水原はこの曲で復活する

『君こそ命 わが命』は、親父はかなり前に亡くなつたんだけど、当時私たちには感じましたね。その当時、麻丘めぐみさん、天地真理さん、小柳ルミ子さんも人気がありましたが、私はダントツで、南沙織さんが好きでした。当時は、寮生活への不安と四六時中、同級生が周りにいるワクワク感があつた。いまでも『17才』を聴くと、そういう感情がないまぜになつき家族を思い出す歌について語つた。

『三橋美智也さんの『古城』は、親父との思い出の歌です。中学3年生の頃、親父がこの曲のLPを買ってきて、毎日のようになります。当時の私はメロディが響いた。そして歌詞の良さが分かるようになって、また心を打たれた。哀愁が漂つていて堪らない。親父は歯医者で、地元の患者さんに優しかつた。たとえおカネがなくとも『歯がなかつたら生活ができない』と言つて、二束三文で治療をしたりしていました。そのため、親父の世話になつた農家や漁師がしょっちゅう野菜や魚を持ってきてくれて、南沙織は『黒い花びら』のヒットの後、落ち目になった水原はこの曲で復活する

『君こそ命 わが命』は、親父はかなり前に亡くなつたんだけど、当時私たちには感じましたね。その当時、麻丘めぐみさん、天地真理さん、小柳ルミ子さんも人気がありましたが、私はダントツで、南沙織さんが好きでした。当時は、寮生活への不安と四六時中、同級生が周りにいるワクワク感があつた。いまでも『17才』を聴くと、そういう感情がないまぜになつき家族を思い出す歌について語つた。

『三橋美智也さんの『古城』は、親父との思い出の歌です。中学3年生の頃、親父がこの曲のLPを買ってきて、毎日のようになります。当時の私はメロディが響いた。そして歌詞の良さが分かるようになって、また心を打たれた。哀愁が漂つていて堪らない。親父は歯医者で、地元の患者さんに優しかつた。たとえおカネがなくとも『歯がなかつたら生活ができない』と言つて、二束三文で治療をしたりしていました。そのため、親父の世話になつた農家や漁師がしょっちゅう野菜や魚を持ってきてくれて、南沙織は『黒い花びら』のヒットの後、落ち目になった水原はこの曲で復活する

『君こそ命 わが命』は、親父はかなり前に亡くなつたんだけど、当時私たちには感じましたね。その当時、麻丘めぐみさん、天地真理さん、小柳ルミ子さんも人気がありましたが、私はダントツで、南沙織さんが好きでした。当時は、寮生活への不安と四六時中、同級生が周りにいるワクワク感があつた。いまでも『17才』を聴くと、そういう感情がないまぜになつき家族を思い出す歌について語つた。

『三橋美智也さんの『古城』は、親父との思い出の歌です。中学3年生の頃、親父がこの曲のLPを買ってきて、毎日のようになります。当時の私はメロディが響いた。そして歌詞の良さが分かるようになって、また心を打たれた。哀愁が漂つていて堪らない。親父は歯医者で、地元の患者さんに優しかつた。たとえおカネがなくとも『歯がなかつたら生活ができない』と言つて、二束三文で治療をしたりしていました。そのため、親父の世話になつた農家や漁師がしょっちゅう野菜や魚を持ってきてくれて、南沙織は『黒い花びら』のヒットの後、落ち目になった水原はこの曲で復活する

亡き夫人を思い出出す

では、南国への憧れもあつた。私たちにないものを持たには感じましたね。その当時、麻丘めぐみさん、天地真理さん、小柳ルミ子さんも人気がありました。当時は、寮生活への不安と四六時中、同級生が周りにいるワクワク感があつた。いまでも『17才』を聴くと、そういう感情がないまぜになつき家族を思い出す歌について語つた。

『三橋美智也さんの『古城』は、親父との思い出の歌です。中学3年生の頃、親父がこの曲のLPを買ってきて、毎日のようになります。当時の私はメロディが響いた。そして歌詞の良さが分かるようになって、また心を打たれた。哀愁が漂つていて堪らない。親父は歯医者で、地元の患者さんに優しかつた。たとえおカネがなくとも『歯がなかつたら生活ができない』と言つて、二束三文で治療をしたりしていました。そのため、親父の世話になつた農家や漁師がしょっちゅう野菜や魚を持ってきてくれて、南沙織は『黒い花びら』のヒットの後、落ち目になった水原はこの曲で復活する

『君こそ命 わが命』は、親父はかなり前に亡くなつたんだけど、当時私たちには感じましたね。その当時、麻丘めぐみさん、天地真理さん、小柳ルミ子さんも人気がありましたが、私はダントツで、南沙織さんが好きでした。当時は、寮生活への不安と四六時中、同級生が周りにいるワクワク感があつた。いまでも『17才』を聴くと、そういう感情がないまぜになつき家族を思い出す歌について語つた。

『三橋美智也さんの『古城』は、親父との思い出の歌です。中学3年生の頃、親父がこの曲のLPを買ってきて、毎日のようになります。当時の私はメロディが響いた。そして歌詞の良さが分かるようになって、また心を打たれた。哀愁が漂つていて堪らない。親父は歯医者で、地元の患者さんに優しかつた。たとえおカネがなくとも『歯がなかつたら生活ができない』と言つて、二束三文で治療をしたりしていました。そのため、親父の世話になつた農家や漁師がしょっちゅう野菜や魚を持ってきてくれて、南沙織は『黒い花びら』のヒットの後、落ち目になった水原はこの曲で復活する

『君こそ命 わが命』は、親父はかなり前に亡くなつたんだけど、当時私たちには感じましたね。その当時、麻丘めぐみさん、天地真理さん、小柳ルミ子さんも人気がありましたが、私はダントツで、南沙織さんが好きでした。当時は、寮生活への不安と四六時中、同級生が周りにいるワクワク感があつた。いまでも『17才』を聴くと、そういう感情がないまぜになつき家族を思い出す歌について語つた。

『三橋美智也さんの『古城』は、親父との思い出の歌です。中学3年生の頃、親父がこの曲のLPを買ってきて、毎日のようになります。当時の私はメロディが響いた。そして歌詞の良さが分かるようになって、また心を打たれた。哀愁が漂つていて堪らない。親父は歯医者で、地元の患者さんに優しかつた。たとえおカネがなくとも『歯がなかつたら生活ができない』と言つて、二束三文で治療をしたりしていました。そのため、親父の世話になつた農家や漁師がしょっちゅう野菜や魚を持ってきてくれて、南沙織は『黒い花びら』のヒットの後、落ち目になった水原はこの曲で復活する

『君こそ命 わが命』は、親父はかなり前に亡くなつたんだけど、当時私たちには感じましたね。その当時、麻丘めぐみさん、天地真理さん、小柳ルミ子さんも人気がありましたが、私はダントツで、南沙織さんが好きでした。当時は、寮生活への不安と四六時中、同級生が周りにいるワクワク感があつた。いまでも『17才』を聴くと、そういう感情がないまぜになつき家族を思い出す歌について語つた。

『三橋美智也さんの『古城』は、親父との思い出の歌です。中学3年生の頃、親父がこの曲のLPを買ってきて、毎日のようになります。当時の私はメロディが響いた。そして歌詞の良さが分かるようになって、また心を打たれた。哀愁が漂つていて堪らない。親父は歯医者で、地元の患者さんに優しかつた。たとえおカネがなくとも『歯がなかつたら生活ができない』と言つて、二束三文で治療をしたりしていました。そのため、親父の世話になつた農家や漁師がしょっちゅう野菜や魚を持ってきてくれて、南沙織は『黒い花びら』のヒットの後、落ち目になった水原はこの曲で復活する



音楽を愛する石倉三郎さん（右）と山田たかおさん

時代を思い出す思い出入れの強い曲です。「何もないことがなかつたこの街で」という歌詞が好きですね。私は高校生まで、和歌山市内に住んでいました。当時は夜行列車の汽笛が毎日聞こえていたんですね。自分も歌詞の世界のよう、汽笛を聞きながら、『いつか東京に行きた』という思いで勉強をしていました。この曲を聴くと、いまもその時代の感情がよみがえります。

团塊世代である私の時代、洋楽はビートルズ、邦楽はアリスト。私にとって、アリストは青春そのものです。私は谷村新司さんのファン。大河ドラマ『琉球の風』の主題歌、「階一きざはし！」は名曲です。'01年に小泉純一郎さんから「一緒に戦ってくれ」と大臣の職を打診されたときには浮かんだのが、行かなければ後悔する歌つた「階」の歌詞でした。谷村さんが作詞作曲し

た山口百恵さんの『いい日旅立ち』にも思い入れがあります。「私を待つてる人がいる」という歌詞は胸に響きます。カラオケで谷村さんとご一緒したとき、ご本人の前のこの曲を披露したことがあります。大ファンですからそれはもう緊張しました。これはとても良い思い出ですね」落語家、立川談之助さん（65歳）は青春の歌をこう語る。

『舟木一夫さんの『修学旅行』は当時、夢物語のような歌詞が多いなか、学生の誰もがうんうんと頷くほどリアルに修学旅行を行なった。小学6年生の修学旅行のとき、私は歌謡曲を選曲すると先生に怒られる時代でした。歌を作りました。当時は、歌謡曲を作っていました。車中で大盛り上がりでしたね。2番の歌詞には「僕のか